Pioneer

ターンテーブル

PLX-1000

ご相談窓口・修理窓口のご案内

お取り扱いにお困りのとき、本書の巻末をご覧ください。

http://pioneerdj.com/support/

上記のPioneerDJサポートサイトでは、困ったときのよくある質問やソフトウェアの情報など、より快適に製品をお使いいただくための各種情報やサービスを提供しております。

取扱説明書

もくじ

本書の見かた

- このたびは、パイオニア製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
  この冊子は必ずお読みください。この製品の使用前にご理解いただくべき重要事項が含まれています。
  特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」は「保証書」と一緒に必ず保管してください。
- 本書では、製品本体ボタン名および端子名などを、[ ] で囲んで記載しています。
  記載例：
  — [**START/STOP**] ボタンを押す
  — [**PHONO**] 入力端子のないプリメインアンプやコンポなどに接続すると、十分な音量・音質が得られません。その場合は、PHONO イコライザーをお使いください。

01 安全上のご注意
警告 3
注意 4
設置場所について 4
製品のお手入れについて 4

02 はじめに
本機の特長 5
付属品を確認する 5

03 準備する
カートリッジについて 6
組み立てる 6

04 各部の名前とはたらき
トップパネル 8
本体背面部 9

05 調整する
トーンアームのバランスを調整する 10
針圧を調整する 10
アンチスケーティングを調整する 10
アームリフターの高さを調整する 11
アームの高さを調整する 11

06 接続する
各端子の説明 12
基本スタイル 12
設置する場所 13

07 操作する
電源の入れかた 14
電源の切りかた 14
演奏する 14
演奏を一時中断する 14
演奏を終える 14
ピッチを調整する 15

08 その他
故障かな？と思ったら 16
保証とアフターサービス 16
使用上のご注意 17
各部のお手入れ 17
商標および登録商標について 17
仕様 17

安全上のご注意

- 安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
- ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意 (警告を含む) しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容 (左図の場合は感電注意) が描かれています。

⃠ 記号は禁止 (やってはいけないこと) を示しています。図の中に具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容 (左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く) が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源コードの上に重い物を載せたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物を載せてしまうことがあります。

放熱をよくするため、他の機器、壁等から間隔をとり、ラックなどに入れるときはすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あおむけや横倒し、逆さまにする。
- 押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
- じゅうたんやふとんの上に置く。
- テーブルクロスなどをかける。

着脱式の電源コード (インレットタイプ) が付属している場合のご注意 : 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱により火災・感電の原因となることがあります。

使用環境

本機に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

表示された電源電圧 (交流 100 ボルト、50 Hz/60 Hz) 以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

ぬれた手で (電源) プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら (芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。

雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

設置

本機を設置する場合には、壁から 5 cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときは、本機の背面から 5 cm 以上、側面から 5 cm 以上のすき間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用方法

ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。飛び散ってけがの原因となることがあります。

音が歪んだ状態で長時間使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

保守・点検

5 年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

設置場所について

- 熱を発生するアンプなどの上に直接置いたり、スポットライトなどの近くで長時間使用すると、本体に悪い影響を与えますので、おやめください。
- チューナーやテレビから離して設置してください。近くに置いた場合は、雑音や映像の乱れが生じることがあります。なお、雑音や映像の乱れは室内アンテナをご使用の場合に起こりやすく、このようなときは、屋外アンテナを使用するか、本機の電源を切ってください。
- 本機は水平で堅牢な床のある場所に設置してください。

本機の使用環境について

本機の使用環境温度範囲は5 ℃～35 ℃、使用環境湿度は85 %以下(通風孔が妨げられていないこと)です。
風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光(または人工の強い光)の当たる場所に設置しないでください。

D3-4-2-1-7c_A1_Ja

製品のお手入れについて

通常は、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で 5 ～ 6 倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

愛情点検

長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。

⬇

ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

K026*_A1_Ja

はじめに

本機の特長

本機はホームリスニング用途からディスコ / クラブシーンまで、あらゆる現場で求められる機能、耐久性、操作性および音質を実現するプロフェッショナルターンテーブルです。

ハイトルクを実現するダイレクトドライブ方式

ワウフラッター 0.1 %以下、起動トルク 4.5 kg · cm 以上、起動時間 0.3 秒（33 1/3 rpm 時）で定速回転します。

高音質を重視した設計

- RCA 端子は、弊社フラグシップブランドである TAD のプレーヤーにも搭載されている切削品の金メッキ部品を採用しました。安定した接続で PHONO 信号をダイレクトに伝送します。
- 外部からの振動の影響を抑制するために、上下キャビネット間に振動抑制材料を採用しています。

高精度かつ可変幅が3段階調整可能なテンポコントロール

- ± 8 %、± 16 %、± 50 % にテンポ可変幅が選択可能です。自由度の高い演奏を実現します。
- [**RESET**] ボタンで、瞬時に± 0 % の定速回転に戻すことができます。

着脱可能な電源コードおよび音声ケーブル

- 本体移動時もケーブルが邪魔にならず、断線トラブルを回避できます。

付属品を確認する

- ターンテーブル
- ターンテーブルシート
- スリップマット
- スリップシート
- ダストカバー
- EP レコード用アダプター
- バランスウェイト
- サブウェイト
- ヘッドシェル
- シェルウェイト
- 電源コード
- 音声ケーブル
- アース線
- 保証書
- 取扱説明書 (本書)

警告 小さな部品は幼児の手の届くところに置かないでください。万一飲み込んだ場合にはただちに医師と相談してください。

D41-6-4_A2_Ja

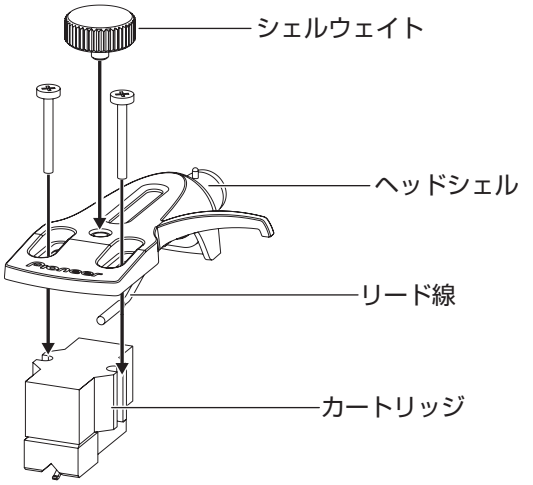
準備する

カートリッジについて

- カートリッジは付属していません。
- お使いのカートリッジの取扱説明書をご参照ください。

お使いのカートリッジをヘッドシェルに取り付ける

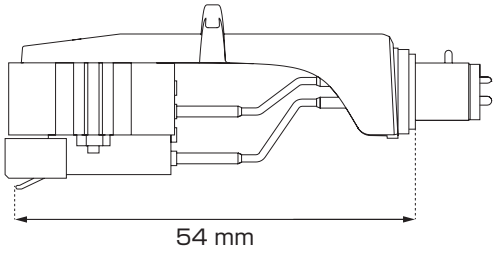
ヘッドシェル部のリード線は色分けされていますので、カートリッジの表示または、それぞれ対応するカートリッジの端子にピンセットなどを使用してしっかりと接続してください。



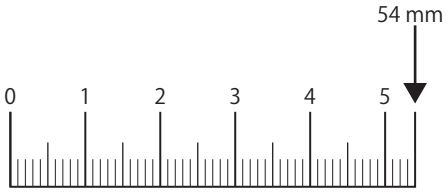
- 3.5 gから6.5 gのカートリッジを使用するときは、付属のシェルウェイトをお使いください。

オーバーハングを調整する

下記のオーバーハング調整用スケールを使用して、針先がトーンアーム取付部から54 mmの位置に合うようにカートリッジ取り付けのねじで位置を調整してください。



オーバーハング調整用スケール

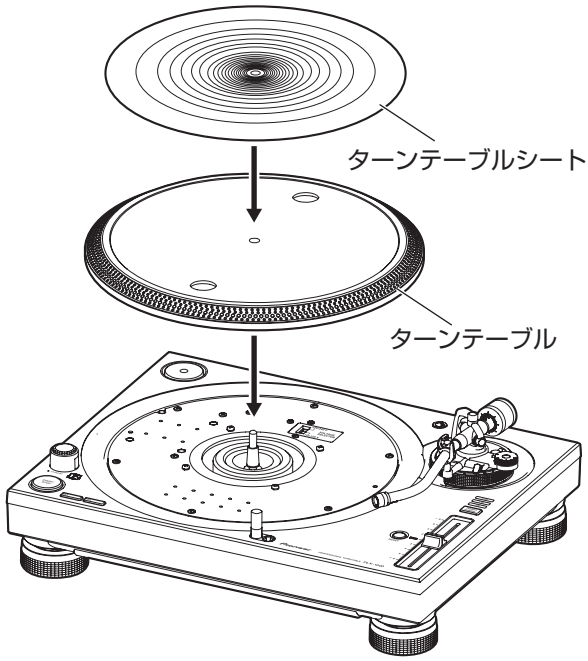


組み立てる

1 ターンテーブルとターンテーブルシートを取り付ける

ターンテーブルをセンタースピンドルにはめて、ターンテーブルシートをのせてください。

- ターンテーブルは、本体に当てたり落としたりしないでください。
- ターンテーブル裏面のマグネットにゴミや鉄粉等が付着しないようにしてください。
- ターンテーブルのマグネット固定ネジ（3 か所）には、触れないでください。固定ネジの位置を変えた場合、定格性能の保証はできません。

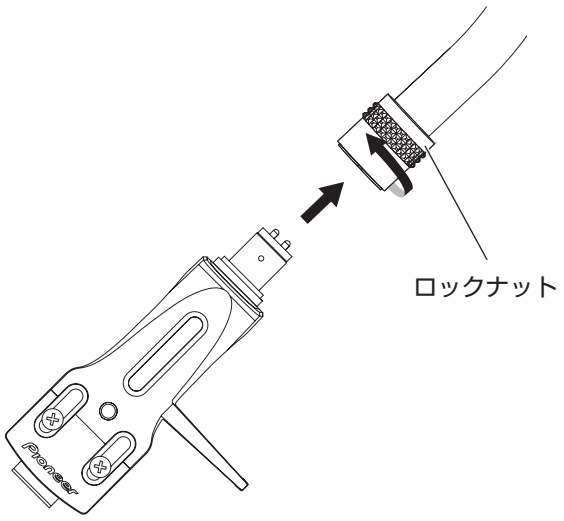


2 お使いのカートリッジをヘッドシェルに取り付ける

ヘッドシェル部のリード線は色分けされていますので、カートリッジの表示または、それぞれ対応するカートリッジの端子にピンセットなどを使用してしっかりと接続してください。

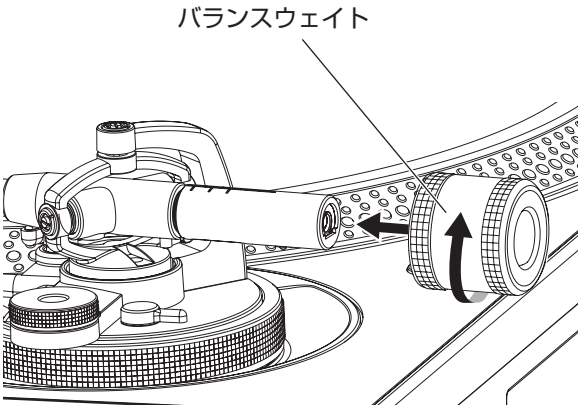
3 ヘッドシェルを取り付ける

カートリッジを取り付けたヘッドシェルをトーンアームに挿入します。次に、ヘッドシェルを水平に保ちながら、ロックナットを締め付けます。

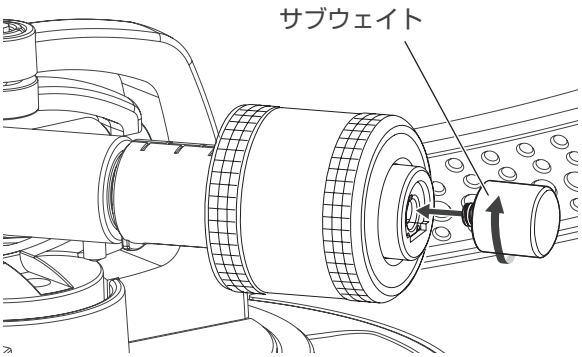


4 バランスウェイトを取り付ける

トーンアームの後部軸にバランスウェイトを取り付けてください。

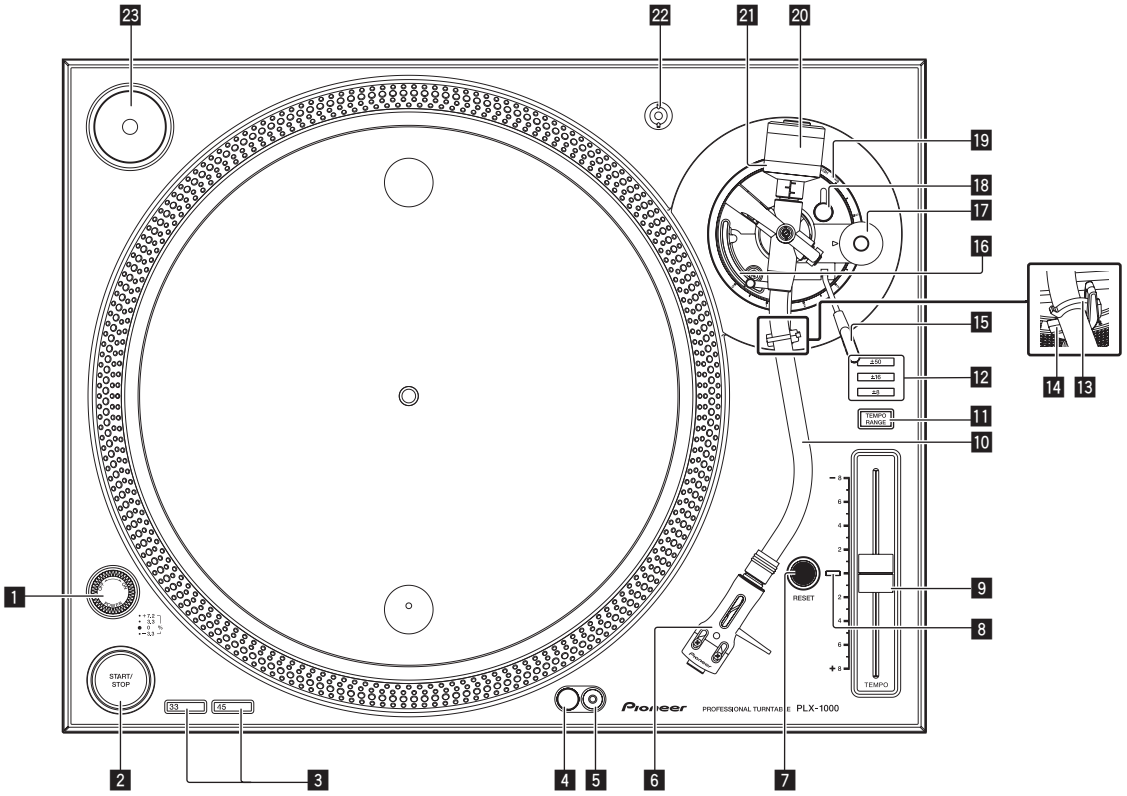


- 9.5 g から 13 g のカートリッジを使用するときは、トーンアームの後部軸にサブウェイトを取り付けてください。



各部の名前とはたらき

トップパネル



1 POWER スイッチ
スイッチを [**ON**] 側に回すと電源がオンになり、側面にあるストロボイルミネーターが点灯します。
➲「演奏する」(p.14)

2 START/STOP ボタン
ボタンを押すと、ターンテーブルが回転したり停止したりします。
➲「演奏する」(p.14)

3 スピードチェンジボタン
演奏するレコード盤に合わせて切り替えます。
- 33 1/3 回転レコード盤は [**33**] ボタンを押してください。
- 45 回転レコード盤は [**45**] ボタンを押してください。

➲「演奏する」(p.14)

4 スタイラスイルミネーター
針先を照らすように点灯します。
➲「演奏する」(p.14)

5 スタイラスイルミネータースイッチ
スタイラスイルミネーターが白色に点灯し、針先を照らす位置まで上がります。
➲「演奏する」(p.14)

6 ヘッドシェル
カートリッジを取り付けて使用します。

7 RESET ボタン

8 RESET インジケーター
[**RESET**] ボタンを押すと、[**RESET**] インジケーターが点灯します。[**RESET**] インジケーターが点灯しているときは、**TEMPO** スライダーの位置に関係なく、規定の回転数（33 1/3 rpm か 45 rpm）になります。
➲「ピッチを調整する」(p.15)

9 TEMPO スライダー
前後にスライドさせることにより、回転数が微調整できます。
➲「ピッチを調整する」(p.15)

10 トーンアーム
➲「調整する」(p.10)

11 TEMPO RANGE ボタン
ボタンを押すたびに、テンポレンジを± 8 %、± 16 %、± 50 % に切り替えます。
➲「ピッチを調整する」(p.15)

12 TEMPO RANGE インジケーター
設定されたテンポレンジが青色に点灯します。

13 アームクランパー
トーンアームを固定するクランパーです。

14 アームレスト
トーンアームの支持台です。

15 リフターレバー
レバーを上に起こすと、トーンアームが上がります。レバーを下に倒すと、トーンアームが下がります。

16 アームリフター
トーンアームを上げたり下げたりするための装置です。リフターレバーによって操作します。

17 ANTI SKATING ダイヤル
レコード演奏時、針先が内周へ引っ張られる力が発生しますが、このダイヤルを針圧と同じ数値に合わせることで、その力を打ち消します。
➲「アンチスケーティングを調整する」(p.10)

18 HEIGHT ADJUST ロック
調整したアームの高さを固定できます。
➲「アームの高さを調整する」(p.11)

19 HEIGHT ADJUST ダイヤル
トーンアームの高さを調整するときに使用します。
➲「アームの高さを調整する」(p.11)

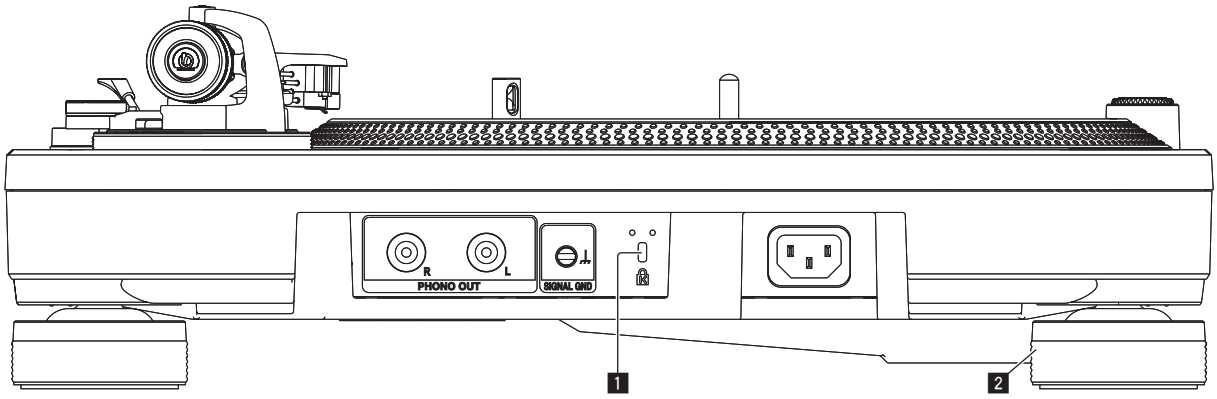
20 バランスウェイト
トーンアームのバランスをとったり、針圧を調整するときに使用します。
➲「調整する」(p.10)

21 針圧調整リング
カートリッジの適正針圧に合わせるときに使用します。
➲「針圧を調整する」(p.10)

22 ヘッドシェルスタンド
シェルを立てるときに使用します。

23 EP レコード用アダプター
EP レコードのドーナツ盤を演奏するときに使用します。
➲「EP レコードのドーナツ盤を演奏するには」(p.14)

本体背面部



接続に使う端子については、12 ページの「各端子の説明」をご覧ください。

1 ケンジントンロック装着用穴

2 インシュレーター
外部からの振動の影響を抑えます。回すとターンテーブルの高さを調整できます。
➲「本体の高さを調整する」(p.13)

調整する

トーンアームのバランスを調整する

- カートリッジやヘッドシェルは製品ごとに質量が違いますので、トーンアームのバランス調整を行います。

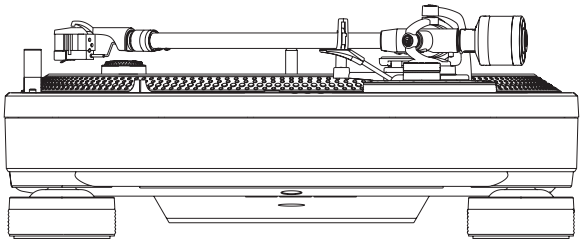
以下の準備をしてください。

- 針先に触れないように針カバーとアームクランパーを外します。
- リフターレバーは下に倒します。
- [**ANTI SKATING**] ダイヤルは“0”にします。

トーンアームをアームレストから離し、水平になるようにバランスを調整する

トーンアームがほぼ水平になるまで、バランスウェイトを回し、調整します。

- トーンアームを移動させるときは、針先が直接ターンテーブルなどに触れないように注意してください。



針圧を調整する

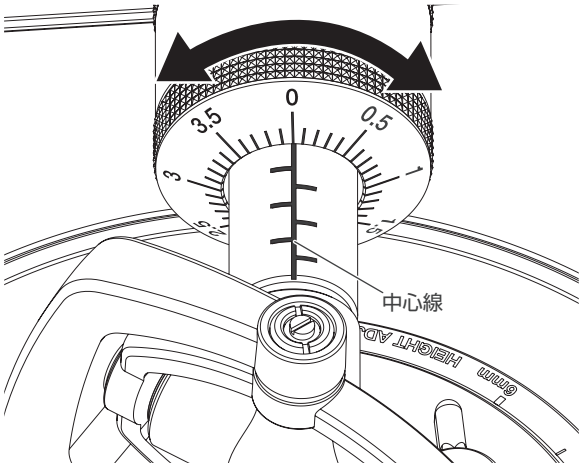
- 針圧は針飛びや音の歪みを防ぐために、カートリッジごとに決められた適正針圧値に調整します。

以下の準備をしてください。

- トーンアームをアームレストに戻し、アームクランパーで固定しておきます。

1 針圧調整リングの“0”をアーム後部軸の中心線に合わせる

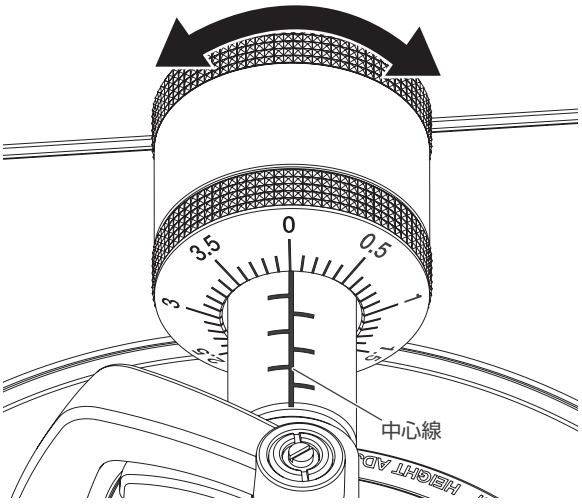
バランスウエイトが動かないように指で支えて針圧調整リングだけを回し、数字“0”をトーンアーム後部軸の黒い中心線に合わせます。



2 針圧を調整する

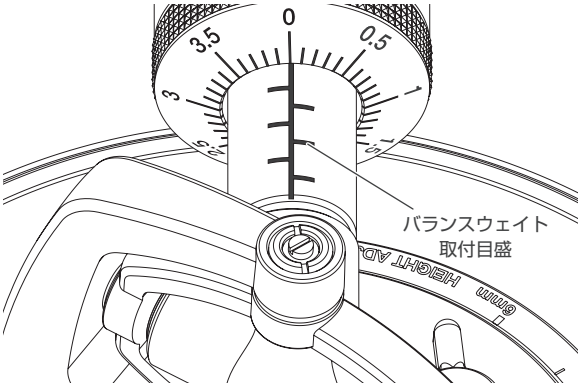
バランスウェイトを回して、お使いのカートリッジの適正針圧値に合わせます。

- バランスウェイトを回すと針圧調整リングも一緒に回りますので、調整リングを見ながら適正な針圧に調整してください。



バランスウェイト取付目盛を使う

お使いのカートリッジ付シェルのバランスウェイト取付目盛を覚えておくと、トーンアームの水平バランスの調整をすることなく、設定したバランスウェイト取付目盛にするだけで適正針圧が設定できます。



1 お使いのカートリッジ付シェルをトーンアームに取り付ける

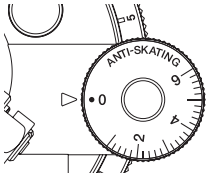
2 バランスウェイトで設定した値でバランスウェイト取付目盛を合わせる

アンチスケーティングを調整する

針飛びを抑えるために調整します。

針圧値と同じ目盛に合わせる

[**ANTI SKATING**] ダイヤルを回し、基準線にカートリッジの針圧と同じ数値を合わせてください。



スクラッチプレイのときは

針飛びを抑えるために、プレイの動作によっては目盛を調整してお使いください。

アームリフターの高さを調整する

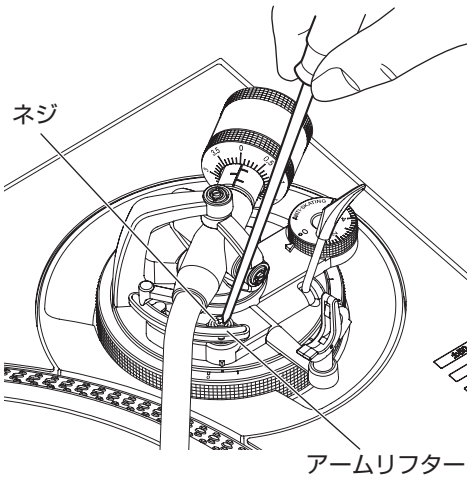
お使いのカートリッジによって、必要な場合に調整してください。
以下の準備をしてください。

- レコード盤をターンテーブルシートに乗せます。
- 針先に触れないように針カバーとアームクランパーを外します。
- リフターレバーを上に起こし、トーンアームをレコード盤上に移します。

アームリフターを押し下げた状態で、ネジを回して調整する

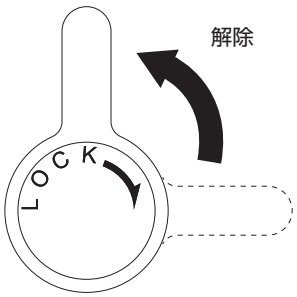
- 時計回りに回すと、レコード盤と針先の間隔が狭くなります。
- 反時計回りに回すと、レコード盤と針先の間隔が広くなります。

アームリフターの高さ（リフターレバーを起こしたときのレコード盤と針先との間隔）は工場出荷時に約 8 mm から 13 mm の範囲で調整しています。

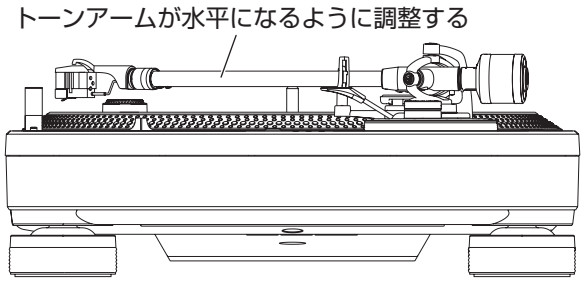


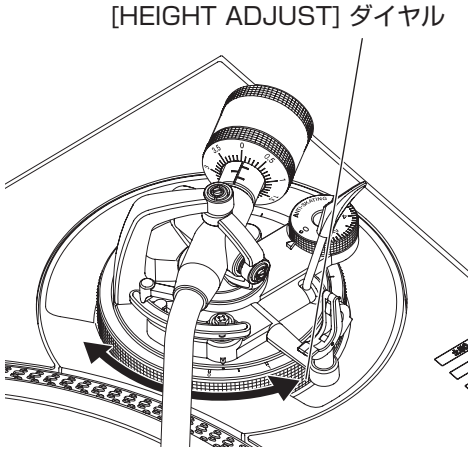
アームの高さを調整する

1 [HEIGHT ADJUST] ロックを回し、ロックを解除する

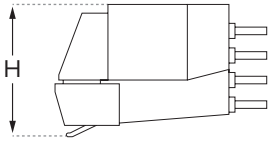


2 リフターレバーを下に倒して針先をレコード盤に載せ、トーンアームとレコード盤が平行になるように [HEIGHT ADJUST] ダイヤルを調整する





お使いのカートリッジの寸法に合うように、下表を参考にしながら [**HEIGHT ADJUST**] ダイヤルを調整してください。



カートリッジの寸法 H（mm）	[**HEIGHT ADJUST**] ダイヤル目盛位置
19	0
20	1
21	2
22	3
23	4
24	5
25	6

3 [HEIGHT ADJUST] ロックを回して、アームの高さを固定する

アームの高さ調整後は、必ず [**HEIGHT ADJUST**] ロックを回して固定してください。

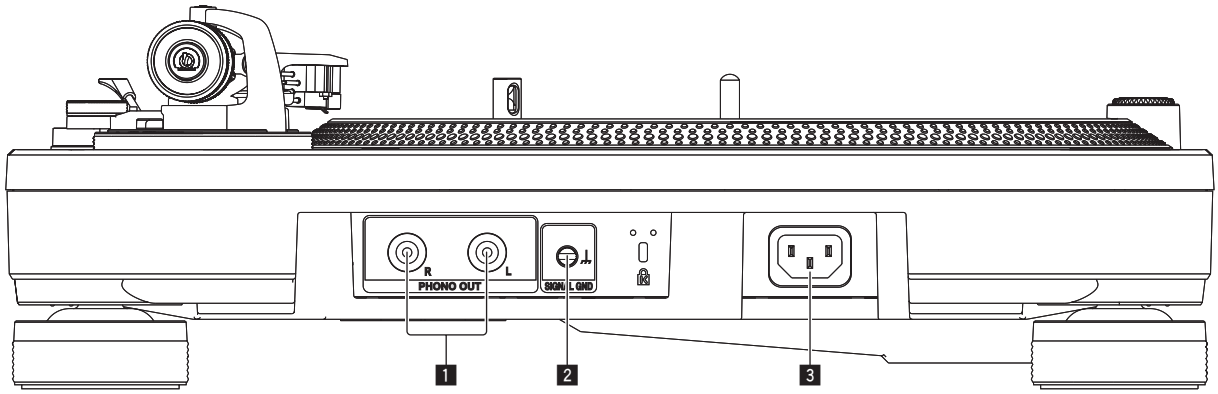
スクラッチプレイのときは

針飛びを抑えるために、プレイの動作によっては [**HEIGHT ADJUST**] ダイヤルでアームの高さを調整してお使いください。

接続する

- 機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。

各端子の説明



1 PHONO OUT 端子
音声ケーブル (付属) を接続します。

2 SIGNAL GND 端子
アース線（付属）を接続します。アナログプレーヤー接続時の雑音低減を図ります。

SIGNAL GND 端子は、アンプもしくは DJ ミキサー等などを接続する場合に、雑音の低減を図るためのものです。 D4-9-1*_A1_Ja

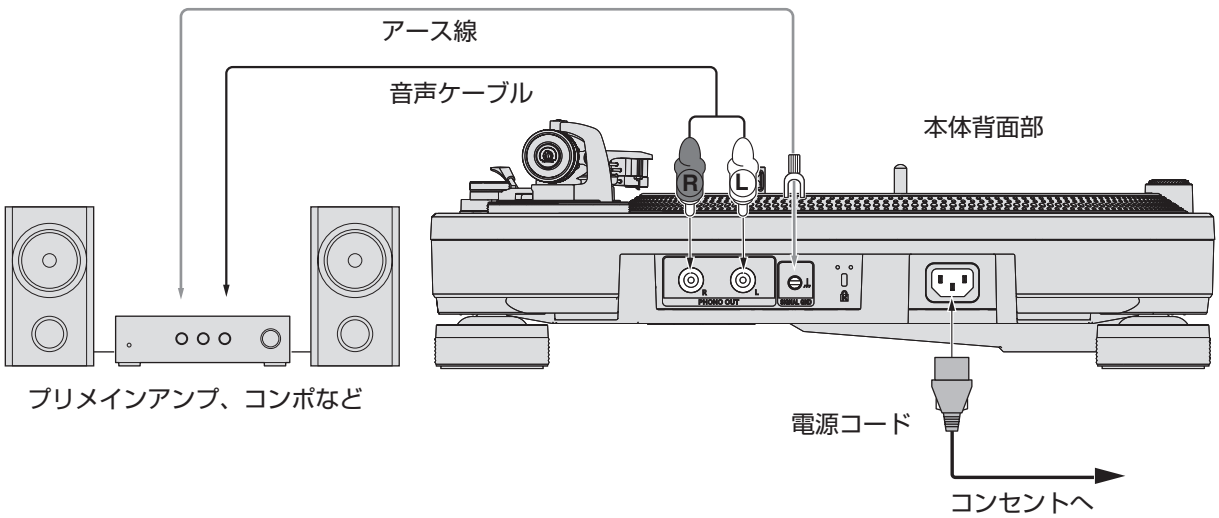
3 AC IN
付属の電源コードを使ってコンセントと接続します。電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。
- 必ず付属の電源コードをお使いください。

⚠ 注意
製品の仕様により、本体部やリモコン (付属の場合) のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ (遮断装置) をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ (遮断装置) に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

基本スタイル

- 付属の電源コードを使ってコンセントと接続します。電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

プリメインアンプ、コンポに接続する



1 音声ケーブル、アース線をプリメインアンプ、コンポなどの [PHONO] 入力端子に接続する

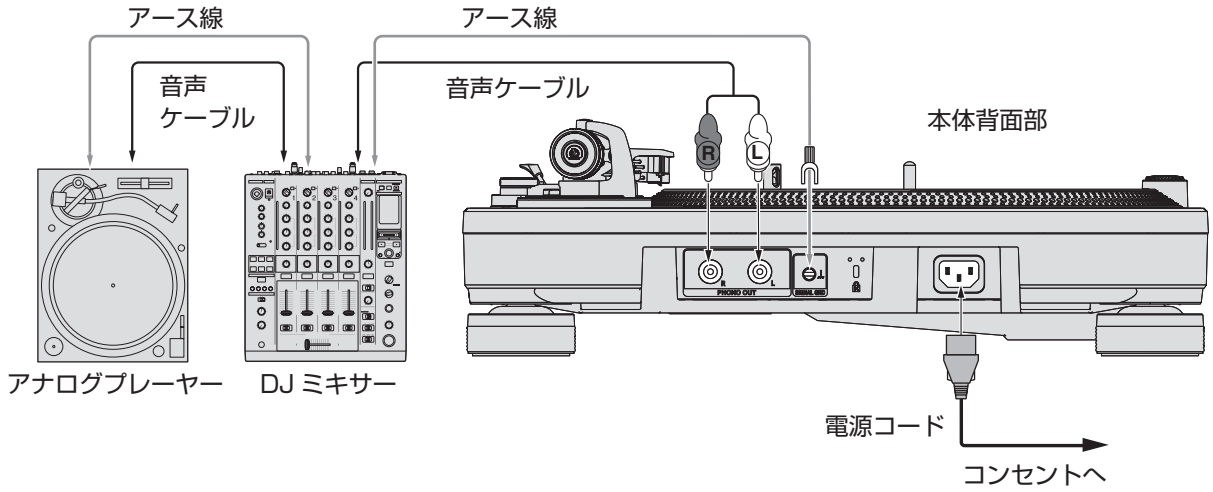
- [**PHONO**] 入力端子のないプリメインアンプやコンポなどに接続すると、十分な音量·音質が得られません。その場合は、PHONO イコライザーをお使いください。
- アース線の接続は必ず行ってください。接続しないと電源ハム（ブーンという音）が出ます。

2 電源コードを接続する

付属の電源コードを使ってコンセントと接続します。電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。

- 接続する機器に搭載されたコンセント (AC アウトレット) に接続する場合は、接続する前にそのコンセントに表示されたワット数を確認してください。（本機の消費電力は 8 W です。）

DJ ミキサーへ接続する



1 音声ケーブル、アース線を DJ ミキサーの [PHONO] 入力端子に接続する

- [**PHONO**] 入力端子のない DJ ミキサーに接続すると十分な音量 · 音質が得られません。
- アース線の接続は必ず行ってください。接続しないと電源ハム（ブーンという音）が出ます。

2 電源コードを接続する

付属の電源コードを使ってコンセントと接続します。電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。

- 接続する機器に搭載されたコンセント (AC アウトレット) に接続する場合は、接続する前にそのコンセントに表示されたワット数を確認してください。（本機の消費電力は 8 W です。）

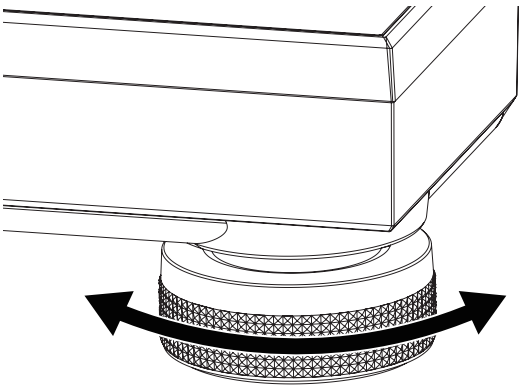
設置する場所

外部振動を受けない、水平な場所に置いてください。

- スピーカーシステムからは、できるだけ離して設置してください。
- ラジオ（FM/AM 放送）を極端に近づけると、ラジオに雑音が入る場合がありますので、できるだけ本機とは離してください。

本体の高さを調整する

本体が水平になるように、インシュレーターを回して高さを調整してください。



操作する

電源の入れかた

1 各接続を行い、コンセントに電源コードを接続する

➲「接続する」(p.12)

2 [POWER] スイッチを [ON] 側に切り換えて、本機の電源をオンにする

本機のインジケーター類が点灯し、電源がオンになります。

電源の切りかた

[POWER] スイッチを [OFF] 側に切り換えて、本機の電源をオフにする

本機の電源がオフになります。

演奏する

以下の準備をしてください。

- レコード盤をターンテーブルに載せます。
- 針カバー、アームクランパーを外しておきます。

1 [POWER] スイッチを [ON] 側に切り換えて、本機の電源をオンにする

2 [START/STOP] ボタンを押す

ターンテーブルが回転します。

3 [RESET] ボタンを押す

[**RESET**] インジケーターが黄緑色に点灯し、規定の回転数 (33 1/3 rpm か 45 rpm) に戻ります。

4 リフターレバーを上に起こし、トーンアームをレコード盤上に移動させる

5 リフターレバーを下に倒す

トーンアームが静かに下降し演奏が始まります。

演奏を一時中断する

リフターレバーを上に起こす

カートリッジの針先はレコード盤より離れます。

- 再度演奏するときは、リフターレバーを下に倒します。

演奏を終える

1 リフターレバーを上に起こし、トーンアームをアームレストに戻した後、リフターレバーを下に倒す

2 [START/STOP] ボタンを押す

ターンテーブルは電子ブレーキによりなめらかに停止します。

3 [POWER] スイッチを [OFF] 側に切り換えて、本機の電源をオフにする

トーンアームはアームクランパーで固定してください。
針先保護のため針カバーを付けてください。

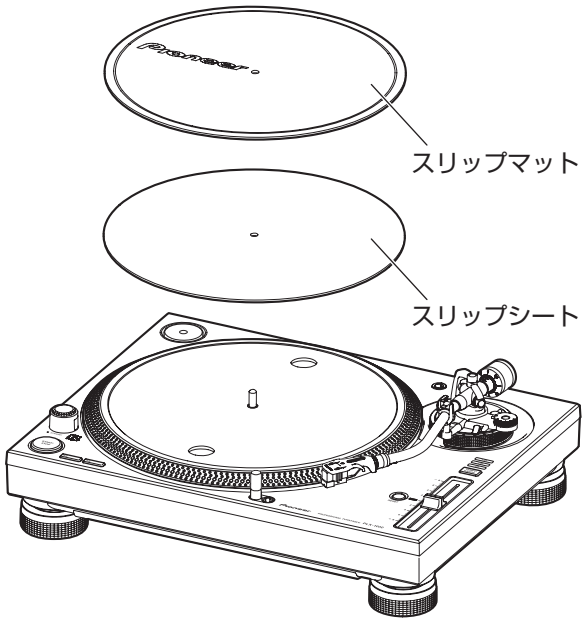
スリップマットとスリップシートについて

スリップマット

ターンテーブルシートの代わりに使用すると、演奏中に手でレコードを止めたり、逆回転にさせることができます。

スリップシート

スリップシートをスリップマットの下に置いて使用すると、スクラッチの滑りが良くなります。



EP レコードのドーナツ盤を演奏するには

EP レコード用アダプターをセンタースピンドルに取り付けて、[**45**] ボタンを押してください。

針先を明るく照らすには

スタイラスイルミネータースイッチを押すと、スタイラスイルミネーターが白色に点灯し、針先を照らす位置まで上がります。

- 必要のないときは、スタイラスイルミネータースイッチを押して下げておきます。スタイラスイルミネーターは消灯します。

ダストカバーを取り付ける

演奏が終わったら、ダストカバーの両側を支えて、真上からかぶせるように載せます。

ピッチを調整する

1 [RESET] ボタンを押して、[RESET] インジケーターを消す

2 [TEMPO] スライダーを前後に動かす

手前側に動かすと回転数が速くなり、奥側に動かすと回転数が遅くなります。

- [**TEMPO**] スライダーの目盛はおおよその数値です。目安としてお使いください。

3 [TEMPO RANGE] ボタンを押す

押すたびに [**TEMPO**] スライダーの可変範囲が切り換わります。可変範囲のインジケーターが点灯します。

設定値	調整単位
±8	0.016 %
±16	0.032 %
±50	0.1 %

通常のピッチに戻す

[RESET] ボタンを押す

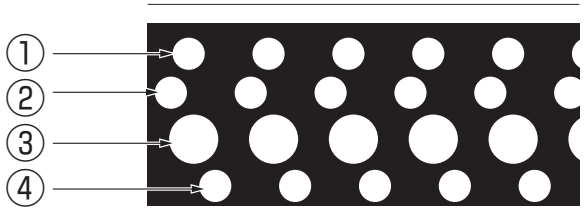
[**RESET**] ボタンを押すと、[**RESET**] インジケーターが点灯します。[**RESET**] インジケーターが点灯しているときは、**TEMPO** スライダーの位置に関係なく、規定の回転数（33 1/3 rpm か 45 rpm）になります。

ピッチを検出する

ターンテーブルの円周に刻まれた４列のストロボ縞目を見ることで、より細かいピッチが検出できます。

- 本機のストロボ縞目の照明には、ストロボイルミネーター（青色 LED 照明）を使用しています。ピッチの検出には必ずストロボイルミネーターの照明をもとに行ってください。

ストロボ縞目



① ストロボ縞目が停止して見えるとき + 7.2 % のピッチ変化
② ストロボ縞目が停止して見えるとき + 3.3 % のピッチ変化
③ ストロボ縞目が停止して見えるとき 規定の回転数（33 1/3 rpm か 45 rpm）
④ ストロボ縞目が停止して見えるとき − 3.3 % のピッチ変化

その他

故障かな？と思ったら

- 故障かな？と思ったら、下記の項目および Pioneer DJ サポートサイトへアクセスして、[**PLX-1000**] の [**よくある質問**] を確認してください。
  http://pioneerdj.com/support/
  また、本機と接続している機器もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは、16 ページの「保証とアフターサービス」をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。
- 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。このようなときは、電源をオフにしてから 1 分後に再度電源をオンにすることで正常に動作することがあります。

こんなときは	ここを確認してください	対応の仕方
電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていますか？	付属の電源コードをコンセントに正しく接続してください。
	電源の [**POWER**] スイッチは [**ON**] になっていますか？	電源の [**POWER**] スイッチを [**ON**] にしてください。
音が出ない、または音が小さい。	音声ケーブルが正しく接続されていますか？	音声ケーブルを正しく接続してください。
	端子やプラグが汚れていませんか？	端子やプラグの汚れを拭き取ってから接続してください。
	ヘッドシェルが正しく取り付けられていますか？	ヘッドシェルを正しく取り付けてください。
左右の音が逆になる。	各機器の接続が左右逆になっていませんか？	音声ケーブル、ヘッドシェル部のリード線を正しく接続してください。
演奏中にブーンという低い音 (ハム音またはバズ音) が入る。	接続コードの近くに蛍光灯などの電気器具や、その電源コードがありませんか？	蛍光灯または他の機器の電源コードをできるだけ離してください。
	ターンテーブルシステムのアース線が外れていませんか？	アース線を正しく接続してください。
針先がレコード盤におりない。	針圧は正しく調整されていますか？	バランスウェイトを、お使いのカートリッジの適正針圧値に合わせてください。
	アームの水平バランスがとれていますか？	トーンアームが水平の状態になるまでバランスウェイトを回し、調整してください。
針とびを起こす。	針圧は正しく調整されていますか？	バランスウェイトを、お使いのカートリッジの適正針圧値に合わせてください。
	レコード盤がそったり、傷がついたりしていませんか？	レコードの状態を確認してください。
	針先にホコリが多量に付いていませんか？	カートリッジ付シェルを取り外し、柔らかい穂先のはけか毛筆でていねいに針先のホコリやゴミを取り除いてください。
	アンチスケーティングは正しく調整されていますか？	アンチスケーティングを正しく調整してください。
	アームの高さは正しく調整されていますか？	アームの高さを正しく調整してください。
アームが途中で止まって進まない。	レコード盤に傷がついていませんか？	レコードの状態を確認してください。
	アームが何かに当たっていませんか？	アームの周辺を確認してください。障害物などがあれば、取り除いてください。
音が小さい。または、大きい。	カートリッジの種類（出力）に適したアンプの接続切り換えになっていますか？	接続ケーブルを正しく接続してください。

保証とアフターサービス

修理に関するご質問、ご相談

裏表紙に記載の修理受付窓口、またはお買い求めの販売店にご相談ください。

保証書 (別添)

保証書は必ず「販売店名·購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。
保証書に販売店名や購入日の記載がない場合は、本製品のご購入の際に受け取られた、購入日が明記されている購入証明書 (レシート、納品書、受注メールなど) が必要となります。保証書とともに大切に保管してください。

保証期間は購入日から 1 年間です。

次のような場合には保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、性能、動作の保証をいたしません。また、故障した場合の修理についてもお受けいたしかねます。

- 本機を改造して使用した場合
- 不正使用や使用上の誤りの場合
- 他社製品や純正以外の付属品と組み合わせて使用したときに、動作異常などの原因が本機以外にあった場合。

故障、故障の修理その他にともなう営業上の機会損失 (逸失利益) は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず補償いたしかねますのでご了承ください。

補修用性能部品の最低保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

本書の 16 ページの「故障かな？と思ったら」をお読みいただき、故障かどうかをご確認ください。それでも正常に動作しないときは、必ず電源プラグを抜いてから、次の要領で修理を依頼してください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：ターンテーブル
- 型番：PLX-1000
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容
  「いつ、どのくらいの頻度で、どのような操作で、どうなる」といった詳細

保証期間中は

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている弊社保証規定に基づき修理いたします。

保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

使用上のご注意

結露について

冬期などに本機を寒いところから暖かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部 (動作部やレンズ) に水滴が付きます (結露)。結露したままでは本機は正常に動作せず、再生ができません。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れずに 1 ～ 2 時間放置し、本機の温度を室温に保てば水滴が消え、再生できるようになります。夏でもエアコンなどの風が、本機に直接あたると結露が起こることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

遠くへ運搬するとき

購入時の包装材を使って包装してください。
購入時の包装材がない場合、以下のことは必ず行ってください。

- ターンテーブルシートとターンテーブルを取り外してから、包装してください。
- ヘッドシェルやバランスウェイトは、アームから取り外してから、ていねいに包装してください。
- トーンアームをアームクランパーで固定して、テープで結んで動かないようにしてください。
- 本体は、毛布や柔らかい紙などで、傷がつかないように包装してください。

各部のお手入れ

ヘッドシェルを着脱するときはアンプの電源を切ってください。
ボリュームを上げたまま行うとスピーカーを破損することがあります。

- カートリッジ付シェルを取り外し、柔らかい穂先のはけか毛筆でていねいに針先のホコリやゴミを取り除いてください。
- レコード盤は良質のレコードクリーナーでよく拭いてください。
- 柔らかい布などでヘッドシェル端子を拭いて、トーンアームに取り付けてください。

ダストカバーなどのお手入れ

ダストカバーとキャビネットは、柔らかい布で拭いてください。

- 通常は、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で 5 ～ 6 倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
- 演奏中は、ダストカバーを拭かないでください。静電気が発生し、トーンアームがダストカバーに引き寄せられることがあります。

商標および登録商標について

- Pioneer はパイオニア株式会社の登録商標です。

その他記載されている会社名および製品名等は、各社の登録商標または商標です。

仕様

電源 ..... AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力 ..... 8 W
本体質量 ..... 14.6 kg
外形寸法 .. 453 mm（幅）× 159 mm（高さ）× 353 mm（奥行）
許容動作温度 ..... + 5 ° C ～ + 35 ° C
許容動作湿度 ..... 5 % から 85 % (結露のないこと)

ターンテーブル部

駆動方式 ..... サーボ式ダイレクトドライブ
モーター ..... 3 相ブラシレス DC モーター
ブレーキシステム ..... 電子ブレーキ
回転数 ..... 33 1/3 rpm、45 rpm
回転数調整範囲 ..... ± 8 %、± 16 %、± 50 %
ワウ・フラッター ..... 0.01 % 以下 WRMS
この値は、モーターに内蔵の FG 信号を用いて測定した値です。
S/N 比 ..... 70 dB (DIN-B)
ターンテーブル ..... アルミダイカスト 直径：332 mm
起動トルク ..... 4.5 kg・cm 以上
起動時間 ..... 0.3 秒 (33 1/3 rpm 時)

トーンアーム部

アーム形式 ..... ユニバーサルタイプ S 字型トーンアーム、ジンバルサポート型軸受構造、スタティックバランス型
有効長 ..... 230 mm
オーバーハング ..... 15 mm
トラッキングエラー ..... 3 °以内
アーム高さ調整範囲 ..... 6 mm
針圧可変範囲 ..... 0 g から 4.0 g (1 目盛 0.1 g)
適正カートリッジ質量 ..... 3.5 g から 13 g (カートリッジ単体)
シェルウェイト使用時 ..... 3.5 g から 6.5 g
バランスウェイトのみ使用時 ..... 6 g から 10 g
サブウェイト使用時 ..... 9.5 g から 13 g

- 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

＜各窓口へお問い合わせ時のご注意＞

「0120」で始まる電話番号は、携帯電話・PHS・一部のＩＰ電話などからはご使用になれません。

ナビダイヤルは、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。また一部のＩＰ電話などからはご使用になれません。

正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただきますようお願いいたします。

商品についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

Pioneer DJ商品の取り付け・組み合わせなどについては、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

Pioneer DJ サポートセンター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　【固定電話から】　**0120−545−676（無料）**

【携帯電話・PHSから】　**0570−057−134（ナビダイヤル・有料）**

■ファックス　**0570−057−135（ナビダイヤル・有料）**

■インターネットホームページ　http://pioneerdj.com/support/

※商品についてよくあるお問い合わせ、ソフトウェアダウンロードなど

修理についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理受付窓口

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　【固定電話から】　**0120−5−81028（無料）**

【携帯電話・PHSから】　**0570−037−610（ナビダイヤル・有料）**

■ファックス　**0120−5−81029（無料）**

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/purpose/repair/

※インターネットによる修理のお申し込みを受け付けております

部品のご購入についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

● 部品（付属品、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　【固定電話から】　**0120−5−81095（無料）**

【携帯電話・PHSから】　**0570−057−140（ナビダイヤル・有料）**

■ファックス　**0120−5−81096（無料）**

平成27年3月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.001

ⓒ 2014パイオニア株式会社　禁無断転載

パイオニア株式会社　〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

<DRA1479-C>
<502-PX1000C-3368B>